

おにクリルぶっくぱーくの これまでのこれから

茨木市立おにクリルぶっくぱーく 館長 後藤 ゆかり

茨木市について

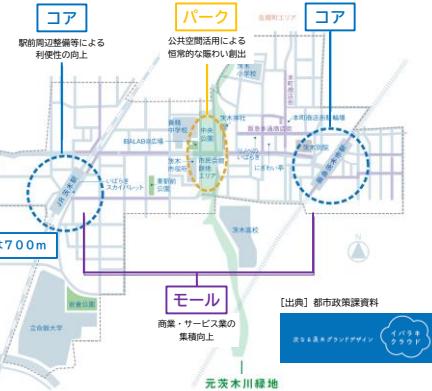
- 大阪府の北摂地域
- 大阪と京都の間に位置する



総人口 285,902 人
男 137,471 人 女 148,431 人
世帯数 135,560 世帯 令和7年7月末 現在
面積 : 76.49km²

おにクリルの概要

2コア 1パーク &モール



2コア1パーク 市民会館跡地エリア



・伊東豊雄氏（プリツカ賞受賞者）設計

・竹中工務店・伊東豊雄建築設計事務所
共同企業体（設計・施工業務事業者）

・「壁の道」

・「壁上広場」

・「おはなしのいえ」

・「こどもの丘」

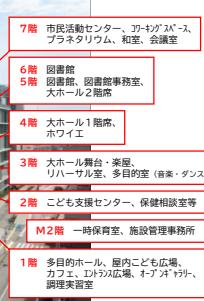
・「大型樹木ラス」

・「芝生広場」

・「大型樹木広場」

・「市役所前緑地」

・「総工費 約166億円（当初約151億円→労務単価上昇、物価高騰のため2度の増額補正）」



茨木市文化・子育て複合施設

おにくる

地上7階建て
延床面積：約19,750m²
広場面積：約3,650m²

主な施設機能：
大ホール、多目的ホール、多目的室、
図書館（約10万冊）、市民活動センター、
子育て支援、屋内遊び場、
プラネタリウム 等

○愛称募集で決定
応募総数 2,677件
市民投票 総投票数 3,473件

6歳（当時）のおさんの案が採用
おにくる
「こわい鬼さんでも楽しそうで
来たくなっちゃうとこ」

施設整備のコンセプト

『日々何かが起こり、誰かと出会う』

7階建ての各フロアを貫く吹き抜け「縦の道」を中心に
様々なプログラムが溶け合う、新しいタイプの公共施設

『立体的な公園』

南北に連なる元茨木川緑地の緑や芝生広場と、施設の各階
テラスや施設内の緑がつながり、建築とランドスケープが
融合した立体的な公園に

縦の道

7階までを貫く吹き抜け
「縦の道」のエスカレーターが各階を繋ぐ

他の階の音や香りが伝わる
目的の階の行きすがら見える
ちょっと行ってみたくなる
をつくる設計

7F
市民活動センター
プラネタリウム
屋上庭園
各種室・和室
コワーキングスペース

6F
宿泊施設

5F
運動場
大ホール・2階席

4F
スポーツ・健康
大ホール・オフィス

3F
大ホール・舞台・座席
多目的・タオル
(ダンス・演劇・音楽)

2F
こども支援センター
えほんかべ
おはなしのひだ

1F
エントランス広場
多目的ホール
屋内こども広場

設計時イラスト

運営各機能の運営体制

- 全館管理（管理運営、会員、ブランチ、広場、維持管理）
指定管理：おにくるみらい（SPS、付添・行け）
- 屋内こども広場、まちなかの森、もっこる
指定管理：まち森Aグループ（明日香、ジャパン）
- 市民活動センター、さやばす
指定管理：いばらき市民活動推進ネット
- 全体統一・連携・協調
直営・共創推進課
- おにくるぶくばーく
直営・図書館
- こども支援センター
運営：子育て支援課
- 一時保育室
委託：明日香
- カフェ
目的的外利用：オンザテーブル



全館体制

おにくる会議

認定出席者数：30名

カンファレンス

ステアリング・コミッティ（ステコミ）

企画・連携ユニット
広報ユニット
全館情報共有会議

サービスユニット
安全安心ユニット
そだてる△ラボ

おにくる会議における企画・運営の統一性やダイバーシティの確保のため、運営による効率的な連携のため、施設の運営組織やセミナーミーティング等を行なう。

【おにくる共創チーム】 市職員、指定管理者で構成。そだてる△ラボについては、市民・団体・大学・学生、民間事業者等の多様な主体も参加

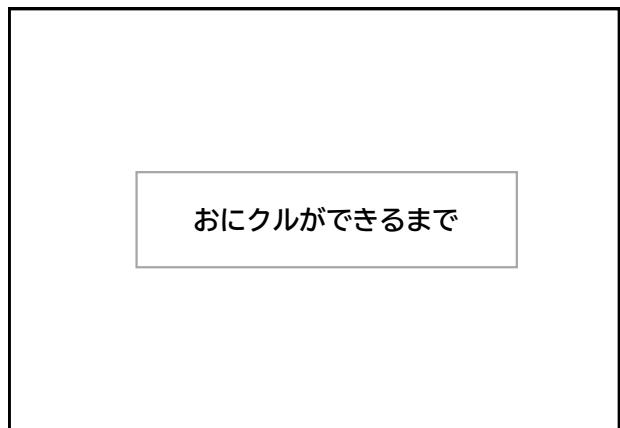
来館者

約360万人

令和7年9月末現在

1日平均約5,800人





そもそものきっかけは、市民会館の閉館

茨木市市民会館
大ホール（1003席）、平土間ホール（200人収容）
会議室4室、和室2室、喫茶店、
市民活動センターなどが入居（閉館時）
(昭和44年開館 地上6階地下1階)

経年劣化による維持管理費の増加、舞台装置の旧式化に加え、
バリアフリー、**耐震性**の面で課題
平成27年12月に**閉館**、**令和元年度に解体**

平成28年度 (市民アンケート、100人会議)

**市長×市民による対話
「100人会議」を実施**

様々な意見を集約、分析し、「ホール」「憩い」「交流」「にぎわい」というキーワード（要素）に集約。

その他意見
「ホール」に関する意見が一定数あります。

市民会館跡地エリア活用キーコンセプト 育てる広場

ひらばくスパイラルアップ

できる「場」を「どう使い」「どう活動し」、そして「どう変えていくか」は、市民自身で考え、市民自身の手により作り上げられていく

行政は「デザイン」やソフト面での「仕掛け」などを整備し、使い方については、「市民や時間に任せること」という考え方。
さまざまな人が集い、自分にあった過ごし方ができる「広場」というイメージの提示。

キーコンセプト「育てる広場」

市民参加

- 「市民の声を聞く」 言うは易く行うは…
 - ・声の大きい特定の人
 - ・そもそも興味のない人もたくさん
 - ・意見はバラバラ

↓

意見だけ聞くのは辞めました
実際に自分たちで「試してみる」という**社会実験**をセットに

「参加」から「主役」へ

意見を聞いて、素敵な施設を作っても、「使う人」がいなければハコモノになるかもしれない。
公共施設なら、「使う人」は市民。
市民が自ら「主役」になることが重要。

令和5年11月26日

おにくる開館

育てる広場＝共有と共感

「育てる」＝プロセスを共有することで、「共感」が生まれる。
多様な価値観を「共感」でつなぐことで、「共創」が生まれる。

茨木市の図書館の概要

■茨木市の図書館の概要

●茨木市立図書館のあゆみ

- 

昭和27年 大阪府立図書館茨木ブックステーション設置

昭和38年 茨木市立図書館併設

昭和48年 茨木市合同庁舎内で業務開始

昭和49年 移動図書館ともしう巡回

平成4年 中央図書館 開館
本館だった図書館を中条図書館に。

平成7年 水星図書館 開館

平成10年 庄栄図書館 開館

平成13年 穂積図書館 開館

令和5年 中条図書館閉館
おにくるばくばくばーく館

早い時期から機械化やデータベースを導入し、資料・情報提供を重視した図書館サービスを行っている。

おにくるぶっくぱーくができるまで

●平成29(2017年)年1月

市民会館跡地活用について各課意見募集 中条図書館の移転を提案 必要な面積：約2,000m²

●平成30年(2018年)3月

茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想

- 機能①ホール機能「市民の“ハレの場”」
②憩い「サードプレイス」
③にぎわい・交流・市中心街地活性化「普段使いできる交流とにぎわいの空間」
④育て支援「いはらば版ウボラ」
⑤・⑥において「風景avenport」という言葉にこだわる

●平成30年(2018年)5月

市民会館跡地エリア活用機能再配置検討会議 中条図書館移転が現実的に。

- ・新施設整備における機能検討にあたり、「憩い」や「日常のいごこちのよい場」などがキーワードであがっていたこと、
 - ・公共施設再配置の視点で検討し、おにクリに図書館機能が盛り込まれた

(参考) ●平成30年6月 図書館としての方向性

-中条図書館移転コンセプト-



●平成30年(2018年)12月

市民会館跡地エリア活用基本計画策定

市民会館跡地工事活用基本計画策定
想定面積 開覧室、事務室、トイレ等 計1,000m²

各階層、広場のさまざまな場所に書架を配置するなど、施設やエリア全体が図書館として機能する配置を計画
管理運営：直営

●令和3年(2021年)5月

茨木市市民会館跡地エリア(新施設・広場)管理運営計画

管理運營：圖書館本堂（上）

●令和4年12月 図書館名を「おにくるぶつくばーく」とする条例について議会で承認

中条図書館の閉館と おにくるぶくぱーく 開館に向けた取り組み

「中条図書館の閉館」

「令和5年8月31日閉館」

10月22日までは、資料の返却・予約受取サービス・予約の受付・利用カードの申込・データベースコピーサービスについて対応

- 9月1日～9月5日 移転前の資料点検5日間
- 9月6日～10月31日 資料移設業者との移設準備作業
- 11月1日～11月17日 新施設資料搬入・配架
- 10月上旬～10月末日 中央図書館で追加機器導入事前準備作業
- 10月23日～10月末日 中条図書館の機器搬入準備作業
- 11月1日～11月17日 新施設機器搬入・フロア配線・機器配置・設定作業

11月18日・19日 プレオープン
11月27日 おにくるぶくぱーく通常開館

25

さまざまな連携事業の開催

令和4年度

- ×文化振興財団 5月22日 中央図書館ライブラリーコンサート
- ×文化振興資料館 6月25日 おにくるの過去と未来にタイムスリップ！！
- ×プラネットリウム 7月1日から継続中 プラネタリウムの出張図書館
- ×市民活動センター 10月16日 おにくるへ行く大作戦への出張図書館
- ×子育て支援課 10月22日～27日 こどもBOOKCLE (絵本交換イベント)
- ×文化振興財団・跡地活用推進課、まち魅力発信課 10月23日 BOOK TRAVEL (本にまつわる様々なイベント)
- ×文化振興財団 12月17日 ナイトライブラリーコンサート (フルートアンサンブル)
- ×文化振興財団 2月25日 ナイトライブラリーコンサート (仮) (演奏会)
- ×プラネットリウム 3月から 階段年表 図書館とプラネタの50年
- ×生涯学習センター 3月12日 きらめきフェスタ
- ×跡地活用推進課 3月25日 IBARAKIストリートアクション

令和5年度

- ×プラネットリウム 4月29日 宇宙かぶとをつくろう
- ×立命館人文学 5月21日 立命館アライブ
- ×市民活動センター 6月3日 Let'sアクション応援市民活動フェスタ
- ×文化振興課×子育て支援・市民活動センター 6月11日 市民活動ナビ
- ×文化振興課 6月24日の週 いきものジャングルBOX工作に合わせた館内でのいばらきの環境パネル展示
- ×プラネットリウム 7月30日・8月12日 階段雀麦ツアーアー
- ×おにくる関係課 8月7日 おにくるぶくぱーくで使うブックエンドペイント
- ×S.P.S 9月23日 イオンSDGsフェス 茨木市の新スポットの魅力に触れよう
- ×農林課 11月19日20日 農業祭「青空ぶくぱーく」

クラウドファンディングの実施



- 336万4千円を達成 (目標額200万円)

- 大型絵本や紙芝居、絵本、多言語絵本 (275冊)
合わせて1,632冊を購入

- 返礼品として、プレオープンご招待やブックトラックアートペイントの

- ワークショップを実施 → コンセプト「育てる広場」

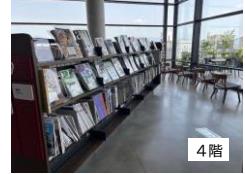
- 市内の体操教室にも出かけ、おにくるや図書館、クラファンをアピール

おにくるぶくぱーくの 特徴

おにくるぶくぱーくの特徴

- ①機能にあった資料提供

- ②どこでも読書



おにクルぶっくぱーくの特徴

③他機能との共創

●出張おはなし会、夜カフェへの参加、ボードゲーム
×市民活動センターきやばす

●就業セミナーなどで図書館資料やデータベースを紹介
×商工労政課

おにクルぶっくぱーくの特徴

③他機能との共創

●おにクルキャンプ
×全おにクル関係課+

●多言語おはなし会
×大阪国際文化協会

●おもちゃづくり
×ボランティア

おにクルぶっくぱーく開館後の状況

おにクルぶっくぱーく開館後の状況

①面積・座席数・蔵書数等

中条図書館		おにクルぶっくぱーく	
規模	延べ床面積 989.28m ²	規模	延べ床面積 2371.26m ²
閲覧席	73席	閲覧席	449席
設備	イオナット・BB端末 1台	設備	イオナット・BB端末 2台 自動貸出機・自動返却機・BDS・予約受取コーナー から、レブフレンスカラウンタ
資料	図書・雑誌・CD 約10~11万点	資料	図書・雑誌・CD 約10~11万点
開館時間	平日10:00~17:00 土曜10:00~17:00 休日10:00~17:00	開館時間	9:30~21:00 休日10:00~20:00 休日10:00~20:00 土曜10:00~19:00
閲覧日数	305日(令和4年度)	閲覧日数	333日(令和6年度)

②利用状況

おにクルぶっくぱーく利用統計令和4年度		
	合計	日平均
貸出点数(点)	678,989	2,039
貸出人數(人)	183,648	551
新規登録(人)	3,348	10

(参考) 中条図書館令和4年度

	年間	日平均
貸出点数(点)	459,884	1,508
貸出人數(人)	106,555	349
新規登録(人)	737	2

③体制

- 正規職員7名（司書資格有6人）
週5日7.5時間勤務会計年度任用職員6人（司書6人）
朝3時間勤務の会計年度任用職員（土日は2人）
夕方4時間勤務の会計年度任用職員が2人名
- 1日あたり、平日は6~9人、土日祝は7~9人の出勤
- 出勤時間：
平日夜間 18:45~17:15
土日祝夜間 10:45~19:15
- 平日には複合施設を運営していくためのおにクル会議が定期的に開催され、正規職員が分担して参加。
- 業務分担：一般室担当、児童室担当、視聴覚資料担当、雑誌担当
ブックスタート担当、庶務担当、連携担当、広報担当

④所感 良いこと・課題

(良いこと)

- おにクルが開館するまでの取組により、職員同士の顔が見えて連絡がとりやすくなっている。
- 開館してからの新規登録者数は令和4年度1年間の3.7倍。（R4年度は737人、R5年度11月～3月2,749人）
- 中条図書館と比べ、幅広い年齢層の利用者が訪れている、中高生の来館利用の増加。
- フロアワークが増え、利用者と接する機会が増えた。
- 大人の方も、5階児童書を手に取るようになった。
- それぞれのスタイルで大人も子どもも読書を楽しめている。
- 連携により、多様なテーマで特集本コーナーを作り、人と本をつなげることができる。
- 市民の方から、少しずつだが一緒に何かやろうと声をかけてもらえるようになった。

(課題)

- 自動返却機の本の回収業務
- 書架整理・本の場所のご案内
- 自習の増加・席取りの問題
- 職員間の情報共有